

解答

- 一
問一 1 いんせき 2 しょうしん 3 きじょう 4 はく(す) 5 む(らす)

- 二
問一 1 険悪 2 奮起 3 効能 4 秘(める) 5 熟(れる)

- 三
問一 問一 ウ
問二 問二 エ
問三 問三 イ
問四 問四 a
問五 問五 1 艦載機 2 イ
問六 問六 ア
問七 問七 ウ
問八 問八 とにか
問九 問九 悪夢
問十 問十 エ
問十一 問十一 ア
問十二 問十二 二つの死
問十三 問十三 ウ
問十四 問十四 エ

- 四
問一 問一 1 イ 2 エ 4 ウ
問二 問二 ウ
問三 問三 想定
問四 問四 農耕民の定住生活
問五 問五 なんら
問六 問六 イ
問七 問七 エ
問八 問八 イ
問九 問九 ア
問十 問十 あまり
問十一 問十一 ウ
問十二 問十二 イ
問十三 問十三 ウ

- 五
1 意気投合 2 異口同音 3 急転直下 4 言語道断 5 公明正大

解説

三
問十 —線部6の前後に述べられている内容から考えます。柩の上の写真を見て、ヒロ子さんの死が自分の責任ではないかと思ひこみ、自分の無罪に幸福を感じている様子から、選択肢エが最も適切であることがわかります。
問十四 本文には、「彼」が戦時中、自分を助けにきたヒロ子さんを突きとばし死なせてしまった罪悪感にとらわれていることや、十数年後同じ町に下りた際、ヒロ子さんの母親の葬列に出くわし、境遇を知って、二つの死

から逃げられないことを痛感している姿が描かれています。これらの内容から選択肢エが適切です。

四

問六 B の後にある「たとえば」以降の部分に着目します。「飛んだり跳ねたり」という表現は、「走ったり騒いだり暴れたり」というようなことを言外に含んでいるという記述から、選択肢イが最も適切であることがわかります。

問十 線部9を含む段落の前に着目します。省略可能な範囲が狭く冗長になりやすい表現を「あまりに隅々まで描き込むこと」と言い表しています。

問十三 Iにある「表現における普遍とは何か。」という一文や、IIの最終段落の内容と、その後続く段落で指摘している三点、VIにある「日本語の表現特徴のようなものはまだまだありそうだ。」の一文から考えると、この作品の題として最も適切なものは、選択肢ウであることがわかります。